

本 会 記 事

1. 平成 27 年度 第 1 回評議員会議事録

日 時：平成 27 年 11 月 21 日（土）14:00～17:30

場 所：日本植物防疫協会会議室（地階大会議室）

出席者：相野公孝, 青木孝之, 有江 力, 古屋廣光, 濱本 宏, 曳地康史, 平塚和之, 平八重一之, 一瀬勇規, 岩井 久, 景山幸二, 川北一人, 北 宜裕, 児玉基一朗, 久保康之, 増田 税, 森田健二, 中島 隆, 難波成任, 夏秋啓子, 夏秋知英, 西口正通, 大島一里, 奥野哲郎, 佐野輝男, 佐藤豊三, 瀧川雄一, 田代暢哉, 富岡啓介, 土佐幸雄, 土屋健一, 津田新哉, 月星隆雄, 對馬誠也, 渡邊 健, 吉川信幸, 金山晋治, 寺岡 徹会長, 桑田 茂副会長, 宇垣正志庶務幹事長

以上評議員 40 名（定員 57 名, 欠席者：秋光和也, 阿久津克己, 荒瀬 榮, 畔上耕児, 長谷川裕, 廣岡 卓, 百町満朗, 石黒 潔, 近藤則夫, 松永 礼, 根岸寛光, 大木 理, 高橋英樹, 高橋賢司, 高松 進, 田中文夫, 柘植尚志）
幹事・事務局出席者：吉田重信庶務副幹事長, 松下陽介庶務幹事, 越智 直庶務幹事, 前島健作会計幹事, 鍵和田聡副会計幹事, 松原美穂事務局員, 渡辺玲子事務局員

1. 開会の挨拶（寺岡会長）

2. 審議事項（議事進行：寺岡会長）

(1) 平成 28 年度功績者の推薦について（奥野功績者推薦委員長）

委員会から永年会員に児玉不二雄氏, 内藤秀樹氏, 野口保弘氏, 吉村大三郎氏, 善林六朗氏の 5 名が推薦され, 承認された。

(2) 平成 28 年度学会賞及び学術奨励賞の選考について（寺岡賞選考委員長）

委員会から選考経過が報告され, 学会賞授賞候補者に次の 3 氏が決定したことが報告され, 承認された。（氏名の ABC 順）

- ・相野公孝氏「植物内生細菌を利用したナス科青枯病の生物防除に関する研究」
- ・曳地康史氏「感受性の成立に関わる植物病原細菌と宿主植物の相互作用研究」
- ・佐藤豊三氏「植物病原糸状菌の形態と分子系統に基づく分類同定および宿主特異性等に関する研究」

学術奨励賞授賞候補者に次の 3 氏が決定したことが報告され, 承認された。（氏名の ABC 順）

- ・黒瀬大介氏「親和性病原微生物を利用した難防除外来

雑草の制御に関する研究」

- ・前島健作氏「ウメ輪紋ウイルスの同定と診断技術の開発および分子疫学的研究」
 - ・松下陽介氏「園芸作物に感染するウイロイドの生物学的特性に関する研究」
- (3) 平成 28 年度論文賞の選考について（岩井論文賞選考委員長）

委員会より論文賞授賞候補論文に以下の 2 編が選定されたことが報告され, 承認された。（筆頭著者の ABC 順）

- ・Kensaku Maejima, Misako Himeno, Osamu Netsu, Kazuya Ishikawa, Tetsuya Yoshida, Naoko Fujita, Masayoshi Hashimoto, Ken Komatsu, Yasuyuki Yamaji, Shigetou Namba. Development of an on-site plum pox virus detection kit based on immunochromatography. *Journal of General Plant Pathology* 80(2): 176–183 (2014)
- ・Nobumitsu Sasaki, Ryuki Shishikura, Hiroshi Nyunoya. Formation and intracellular movement of cytoplasmic bodies of the tomato mosaic virus 126-kDa replication protein in association with the viral movement protein. *Journal of General Plant Pathology* 80(3): 272–281 (2014)

(4) 平成 29 年度大会開催地について（吉川評議員, 寺岡会長）

平成 29 年度大会を盛岡市において開催することが提案され, 承認された（予定期間：平成 29 年 4 月 26～28 日）。第 4 回日韓合同シンポジウムを併せて開催予定であるが, 韓国植物病理学会から, 同年 9 月に韓国で開催予定の第 6 回アジア植物病理学会議（ACPP）の前日に韓国側主催で日韓合同シンポジウムを開催したい旨の提案がなされていることが, 久保評議員から報告され, 検討することとした。平成 30 年度大会の開催予定地は近畿地区であることが確認された。

(5) 次期編集事務局について（寺岡会長）

平成 28 年 1 月から名古屋大学に編集事務局（川北編集委員長）を置くことが確認された。また, 編集事務局は, これまで 2 期 4 年間務めることが慣例であったが, 負担軽減のため原則 1 期 2 年間で地域毎に持ち回りとすることが, 幹事会と新旧編集委員会から提案された。後日, 他の事項と併せて評議員会アンケートを実施することとした。

(6) 平成 28 年度教育プログラム開催地について（桑田教育プログラム推進委員長）

平成 28 年度の第 12 回植物病害診断教育プログラムを

法政大学にて開催することが提案され、承認された。

(7) (独) 農業生物資源研究所遺伝資源センターの後継組織との共同研究協定 (吉田庶務副幹事長)

(独) 農業生物資源研究所遺伝資源センターが日本植物病名目録のデータ利用許可のもと運用している日本植物病名データベースについて、次年度は法人の組織改編が予定されているため現在のデータ利用協定が失効すること、また、病名目録の編集作業とデータベースの作成作業が現状密接に関係していることから、両作業を次年度以降も引き続き円滑に進めていくために、本学会とデータベースを継承する新センターとの間で次年度に共同研究協定を締結したい旨、遺伝資源センターから要望のあったことが報告された。審議の結果、協定を締結することが承認された。

3. 報告事項

(1) 平成28年度副会長選挙結果の報告 (平塚選挙管理委員長)

選挙の結果、夏秋知英氏が選出されたことが報告された。

(2) 平成28~29年度評議員選挙結果の報告 (平塚選挙管理委員長)

選挙の結果が報告された。今回より導入された電子投票により、開票作業が大幅に効率化されたことが報告された。

(3) 日本農学進歩賞の受賞者の報告 (宇垣庶務幹事長)

本学会が推薦した志村華子氏「植物ウイルスの病徴誘導における宿主RNAサイレンシングの役割」が平成27年度(第14回)日本農学進歩賞を受賞したことが報告された。

(4) 平成27年度大会・部会・研究会・談話会報告 (宇垣庶務幹事長, 桑田平成27年度大会実行委員長)

平成27年度の大会、部会、研究会等の開催状況について報告された。桑田平成27年度大会実行委員長から、100周年記念大会の会計報告があった。夏秋知英平成27年度関東部会長から、平成27年9月関東・東北豪雨による関東部会の中止について報告があった。後日、関東地区評議員及び幹事によるメール審議の結果、座長による査読の上で講演要旨を和文誌に掲載する決定がなされたことが報告された。

(5) 平成27年度教育プログラム報告 (桑田教育プログラム推進委員長)

平成27年7月27~31日に神戸大学にて開催された第11回植物病害診断教育プログラムの概要が報告され、27名の参加者があったことが報告された。耐性菌の診断が取り上げられたこと、また講師のうち3名は教育プログラムの元受講生であり、好循環が生まれていることが報告された。

(6) 学会誌掲載論文の使用許諾に関する注意 (寺岡会長)
寺岡会長より、学会誌等の著作物を講演会・研究会等で

二次使用する際には、著作権上の問題が生じないように、必要に応じて事前に学会や出版社に許諾を得る必要があること、著者に配慮した使用目的とすること等、具体的な事例が注意事項として提示され、本学会員に周知することとした。岩井編集委員長より、学会誌に掲載された著作物の二次使用を希望する著者が多いことが報告され、今後は幹事会と情報共有をおこなっていくことが確認された。

(7) 「100年史」出版作業の進捗状況 (吉川評議員)

出版作業の進捗状況と、平成28年1月に完成予定であることが報告された。

(8) 平成28年度大会案内 (一瀬評議員)

平成28年度大会が、3月21~23日に岡山コンベンションセンターで開催される予定であることが報告された。

(9) 編集委員会報告 (岩井編集委員長)

英文誌への投稿原稿総数は昨年を上回る見込みだが、国内からの投稿原稿数は大幅に下回っていること、和文誌への投稿原稿数についても昨を下回っていることが報告された。また英文校閲者 Beth E. Hazen 氏が多忙のため、最終英文校閲に時間がかかっていることが報告された。100周年記念大会の際に実施された英語論文ワークショップでは、同氏が100周年を記念して無料で講師を引き受けたという経緯が報告された。平成28年度大会においては、編集局の移行期であるため、英語論文ワークショップは開催しない予定であることが報告された。

(10) 幹事会・編集委員会合同会議報告 (前島会計幹事)

幹事会と現・新編集委員長による合同会議の結果について報告された。今後の編集委員会事務局について、名古屋大学、香川大学、岡山大学の順に設置予定であることが報告された。名古屋大学の任期終了時期に岡山大学の次の編集委員会事務局候補を決めることが確認された。現在の審査編集規程では原著編集委員の任期は連続2期4年間が限度であるが、連続3期以上の引き受けが可能な委員も一定数あることから、再任を妨げない方針で規程改正を検討することとした。著者の投稿料負担状況に関する調査の結果、ほとんどの論文において規定ページ数を超過していることが報告された。そこで、著者への目安のため、文字数とページ数の関係性を投稿規程に明示する方針で規程改正を検討することとした。また、その他の改善策についても提案があり、評議員会アンケートに盛り込まれることとなった。海外からの投稿料未払いに関する問題が報告され、海外からの投稿論文に関しては公開前に編集委員会が支払いを確認する方針であることが報告された。また、投稿の際に支払いの意思を確認する項目を追加することが報告された。英文誌の完全オープンアクセス化に関して検討した

結果、現在よりも費用が高くなることから、恒久的な予算の確保が課題であることが報告された。

(11) 日本農学会報告 (前島会計幹事)

平成 27 年 10 月 3 日に平成 27 年度日本農学会シンポジウムが開催され、当学会から推薦された對馬誠也氏による講演がおこなわれたことが報告された。また日本農学会事務局より平成 28 年度日本農学会会長及び副会長選考の参考とする候補推薦の依頼があったことが報告された。

(12) 日本学術会議植物保護科学連合報告 (鍵和田副会計幹事)

平成 27 年 11 月 14 日に平成 27 年度日本学術会議公開シンポジウムが開催され、当学会から推薦された澤田宏之氏による講演がおこなわれたことが報告された。

(13) 2015 年版病名目録の発行 (松下庶務幹事)

日本植物病名目録 (2015 年版) が病名委員会により作成され、会員専用ページからダウンロード可能であることが報告された。

(14) 日本植物病理学会 / オーストラリアン植物病理学会 (APPS) 間の協定に基づく学生会員交換事業 (夏秋啓子国際化対応委員長)

2 名の募集に対して、名古屋大学から 1 名の応募があり、現在派遣中であることが報告された。平成 28 年度は APPS 側から 2 名を上限に派遣予定であることが報告された。

(15) 男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー参加 (夏秋男女共同参画学協会担当評議員)

現在 89 学協会 (オブザーバー含む) が加盟しており、当学会もオブザーバーとして参加することが提案され、承認された。オブザーバーのため裁決権は有さないが、情報提供を得られる。

(16) 技術士対応委員会・5 学会技術士育成推進委員会報告 (濱本技術士対応委員、難波 5 学会技術士育成推進委員長・技術士対応委員長)

本年の技術士試験合格者は 12 名 (うち女性 4 名) であり、合計 94 名となったこと、100 周年記念大会期間中に、試験対策セミナーが第一部 (一次試験対策) と第二部 (二次試験対策) に分けて 55 名の参加のもとおこなわれ、好評だったことが報告された。また、当学会による技術士育成の経緯と、日本植物医科学協会による植物医師審査の実施について説明があった。

(17) 科研費審査区分の見直しへの対応 (宇垣庶務幹事)

日本学術振興会の石川幸男農学専門研究員より、科研費の分科・細目の見直しに関連して、植物保護科学 (A・B) のキーワードを現在の 43 個から 10 個以内に減らして提案するよう要請があった。将来問題検討委員会において検討

され、キーワードの答申が寺岡会長になされたことが報告された。また、寺岡会長より学会員に向けて科研費への積極的応募を促す一斉メールが送信されたことが報告された。

(18) 5 学会間の相互交流のあり方 (宇垣庶務幹事)

今年度は、8 名の当学会員が農薬学会に会員料金で参加したことが報告された。5 学会間交流に関する当学会の方針が将来問題検討委員会において検討され、会則 20 条により大会における発表は会員に限るとされているため、他 4 学会会員には、当学会に入会の上一回に限り大会等参加費を無料にすることで相互交流を促進可能である旨の答申が寺岡会長になされたことが報告された。本件に関しては今後継続的に検討することが確認された。

(19) web による評議員選挙の実施 (松下庶務幹事)

初めての電子投票であったこと、毎週、投票率に関する途中経過を一斉メールにより送信したこと、投票率としては前回より 6 ポイント上がったことが報告された。

(20) 科研費の採択と申請 (前島会計幹事)

英文誌の国際的な地位向上を目指す取組が、科学研究費補助金・研究成果公開促進費「国際情報発信強化 (B)」に単年度採択 (応募時は 5 年間計画) されたことが報告された。今年度も 5 年間の採択を目指して応募したことが報告された。

(21) 学会からの支出の源泉徴収の開始 (前島会計幹事)

平成 28 年 1 月からのマイナンバー制度の開始に伴い、マイナンバーの取扱い等に関する内規を整備する方針であることが報告された。

(22) 育志賞の選考の開始 (宇垣庶務幹事)

日本学術振興会「育志賞」の候補者選考を開始するにあたり、方法及び時期について評議員会アンケートをおこなうこととした。「学術振興会賞」について、当学会から川口 章氏を推薦したことが報告された。寺岡会長より、他の賞に関しても、応募できるものは学会として後押ししていきたいとの提案があった。

(23) 大会の講演要旨の電子化の見積もり (前島会計幹事)

大会講演要旨集の電子化 (PDF 化し冊子を廃止) に関する試算が報告され、評議員会アンケートをおこなうこととした。大会開催費用のうち、HP 作成のコストが高額であり、毎年改めて契約している状況にあるため、見直しが提案された。

(24) その他

• 学会誌への投稿原稿について、統計学専門家による査読審査の提案があった。本件に関しては、原著編集委員の負担軽減と予算の負担増大の観点も併せて検討することが確認された。